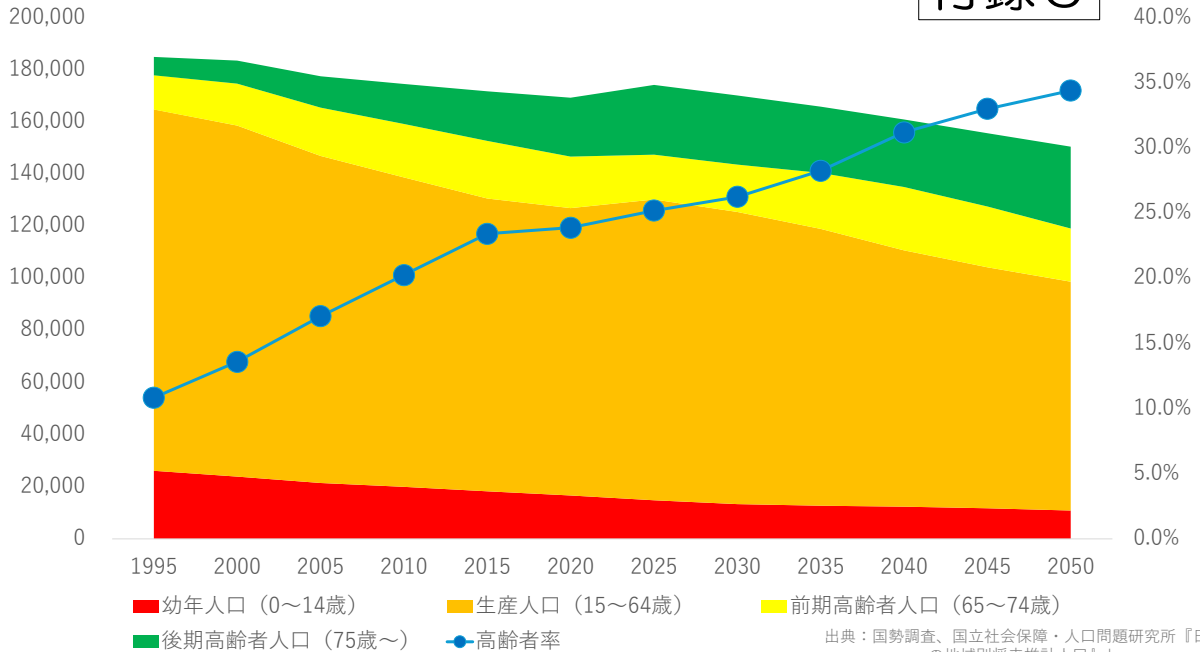


図1 人口構成と高齢化の推移（1995～2050年）

付録6



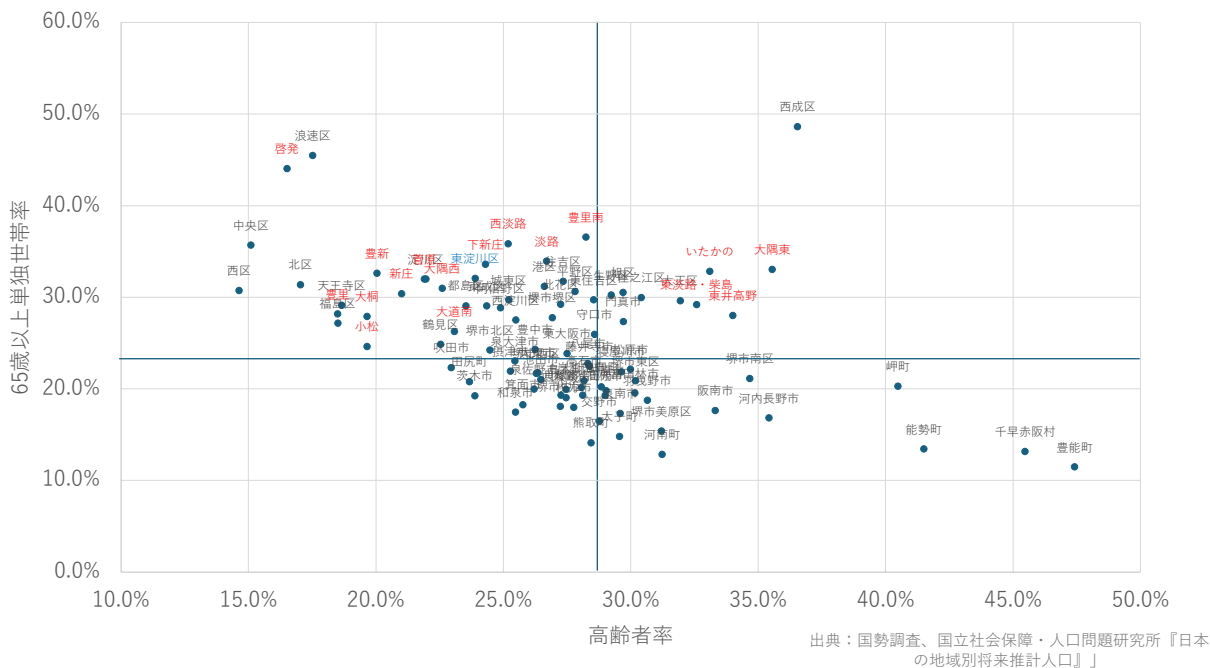
1

- 図1は、下から幼年人口（0～14歳、**赤色**）、生産人口（15～64歳、**オレンジ色**）、前期高齢者人口（65～74歳、**黄色**）、後期高齢者人口（75歳以上、**緑色**）を表す積み上げ面グラフと、高齢者率（65歳以上の人口が全人口の何%いるか）を表す折れ線グラフ（**青色**）です。1995年～2020年は国勢調査、2025年～2050年は国立社会保障・人口問題研究所のデータをもとに作成しています。
- 町会長や民生委員など、地活協の主な担い手である前期高齢者人口が総人口に占める割合が上がり続けるペースが落ちているのに対し、後期高齢者人口は上がり続けると推計されていることが分かります。

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』

2

図3 高齢者率×65歳以上単独世帯率（令和2年国勢調査）



5

- 図3のグラフは、令和2（2020）年国勢調査のデータをもとに作成した、横軸が②と同じく高齢者率、縦軸が65歳以上単独世帯率（65歳以上人口のうち、一人暮らし世帯が何%いるか）を表す散布図です。②と同じく大阪府の市区町村（黒色、東淀川区は青色）と区内の地活協（赤色）のデータを示しています。縦と横の線は全国平均（65歳以上単独世帯率23.5%、高齢者率28.8%）です。ちなみに東淀川区は65歳以上単独世帯率は32.1%、高齢者率は24.3%です。
- 東淀川区は、全国平均を見ても高齢者率は低いですが、65歳以上単独世帯率が高いことが分かります。

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』

6